発表　３

# 「主体的・対話的で深い学び」の視点での授業改善に関する調査・研究

教科教育室　清水幸一　横田義広　山本孝江
都築克征　真鍋昌嗣　亀岡　修
牧　ゆかり　近藤安美　加藤伸弥
飛田善広　西平　幸　三瀬裕子
越智亮平　嶋家健市　清水裕士

## １　研究の目的

新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を通して、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、児童生徒に生きる力を育むことが求められている。そこで、本年度は、授業改善の取組の状況や課題を分析、考察して、学校が求める授業改善の手立てに対するセンターとしての支援の在り方を検討することとした。

## ２　研究の内容

### ⑴　授業改善に関するアンケート調査の実施

#### ア　調査対象

小・中・高等学校基礎研修（初任者研修、フォローアップ研修、キャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ）及び出前講座（小学校のみ）の受講者を対象に調査を行い、有効回答数は572であった。

#### イ　調査内容

教科指導力を高める方法及び授業改善の状況について調査した。なお、授業改善については、教科教育室が作成した授業づくりに関するブックレット「分かる　考える　伸びる授業づくりの基礎・基本」を基に取組の項目を設定し、重要度と実行度について回答を求めた。

### ⑵　アンケート調査結果の分析及び考察

#### ア　教科指導力を高める方法

校種によって差はあるものの、個々に学んでいる割合が高く、放課後は補習や部活動の指導があるなど、組織で学ぶための時間確保が難しい様子がうかがえた。

#### イ　授業改善の状況

主体的・対話的で深い学びを意識していない時と意識した時、いずれにおいても重要であると感じている主な項目は、「何でも言い合える学級やクラスの雰囲気づくり」「児童生徒の実態を踏まえた学習課題の設定」「めあてや目標の明確化の工夫」で、これまでの教科指導においても重視されてきた内容であった。このことから、授業改善の基本的な内容について、新学習指導要領と照らし合わせて、主体的・対話的で深い学びに対応する形で示していく必要性を感じた。また、主体的・対話的で深い学びを意識した時の授業改善において、重要度と実行度の差が大きい主な項目は、「思考ツールの活用」「教科等を横断した教育課程の設定」「評価の工夫」であった。これらの内容について、事例を紹介する等の具体的な情報提供が求められていると捉えた。

#### ウ　授業改善上の課題

主体的・対話的で深い学びを意識した時の授業改善において、実践が十分ではないと回答した理由を尋ねると、「主体的・対話的で深い学びに関する理解が不十分である」「教材研究等を行う時間的な余裕がない」というものが多かった。重要であると考えているにもかかわらず、これらの理由により、十分実践できていないという実態が見て取れた。

## ３　研究のまとめ

今回の調査結果から、組織で学ぶ機会が少ないという課題と、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善についての基礎的な内容と手立て等に関する実践的な内容について情報提供を求めているという実態が見えてきた。そこで、校内研修の充実を図るために、基礎的内容の研修動画Ａと実践的内容の研修動画Ｂ、協議や演習の進行案で構成した研修パッケージを作成し、提供することで、組織として授業改善に取り組む一助になるのではないかと考える。次年度は、より一層、学びの質を高める授業改善が図られるよう、センターとしての研修支援の在り方の研究に取り組んでいきたい。